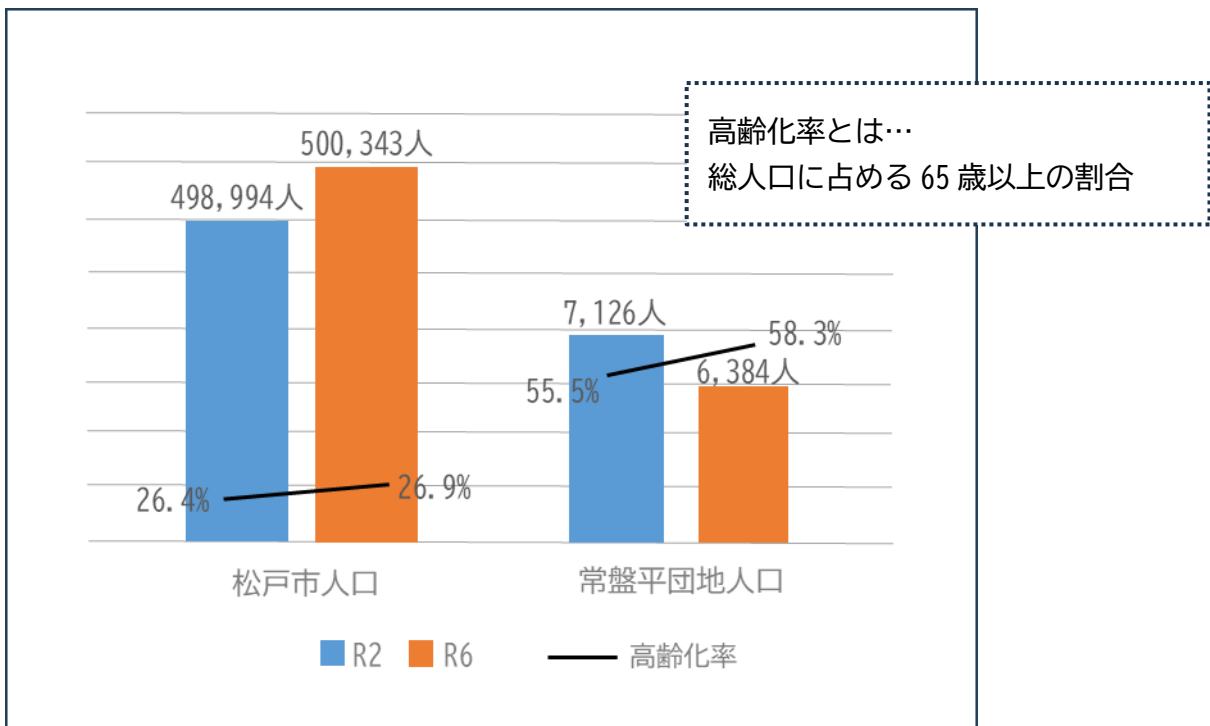


●常盤平第一小学校の通学区域に占める常盤平団地



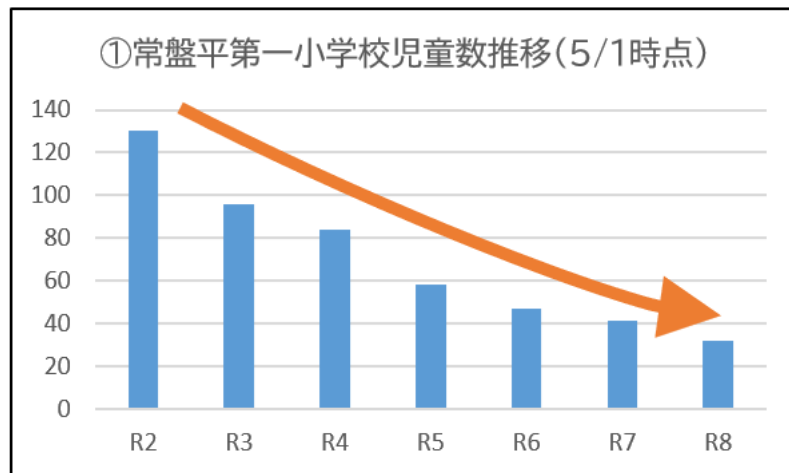
●常盤平団地の人口環境



●常盤平第一小学校の就学児童推移

単位:人

年度	児童数
R2	130
R3	96
R4	84
R5	58
R6	47
R7	41
R8	32



●新一年生の児童数の増減

年度	全校 (人)	増減率 (前年比)	増減率 (H24比)	常盤平第一小学校 (人)	増減率 (前年比)	増減率 (H24比)
H24	4,216			44		
H27	3,968	-5.9	-5.9	37	-15.9	-15.9
H30	3,875	-2.3	-8.1	27	-27.0	-38.6
R2	4,162	7.4	-1.3	33	22.2	-25.0
R3	4,419	6.2	4.8	29	-12.1	-34.1
R4	3,831	-13.3	-9.1	22	-24.1	-50.0
R5	3,736	-2.5	-11.4	18	-18.2	-59.1
R6	3,707	-0.8	-12.1	25	38.9	-43.2
R7	3,625	-2.2	-14.0	21	-16.0	-52.3
R8	3,496	-3.6	-17.1	23	9.5	-47.7

●文科省資料（出典：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き）

（１）学校規模の適正化が課題となる背景

- 児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨^{せつさたくま}することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられます。

【学校規模の標準を下回る場合の対応の目安】

- 以上の考え方に基づき、現行の学校規模の標準（１２～１８学級）を下回る場合に、市町村において考え得る対応について、学級数を中心として大まかな目安として下記のように整理しました。
- 各市町村が学校規模の在り方等について検討するに当たっては、この目安に加え、学年単学級の場合の学級規模、学校全体の児童生徒数、中長期的な児童生徒数の予測、児童生徒の学習状況、社会性やコミュニケーション能力、規範意識の育成の状況などを踏まえて総合的な判断を行うことが望まれます。

小学校の場合

【１～５学級：複式学級が存在する規模】

おおむね、複式学級が存在する学校規模^９。学校全体の児童数や指導方法等にもよるが、一般に教育上の課題^{１０}が極めて大きいため、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。地理的条件等により統合困難な事情がある場合は、小規模校のメリットを最大限生かす方策や、小規模校のデメリットの解消策や緩和策を積極的に検討・実施する必要がある。